

名勝哲学堂公園の再整備に係る進捗状況について

哲学堂公園は令和2年度に国名勝に指定され、令和4年度に「名勝哲学堂公園保存活用計画」、続く令和5年度に「名勝哲学堂公園再整備基本計画」を策定した。現在これらの計画に基づき、再整備に向けた設計等の作業を進めている。

現時点での進捗状況を以下のとおり報告する。

1 名勝哲学堂公園整備検討委員会の設置

文化財等に関する専門的知見を踏まえ、国名勝としての歴史的、文化的価値を考慮した再整備を行うため、「名勝哲学堂公園整備検討委員会」を設置し、同委員会の継続的な指導・助言を受けながら、各種取組を進めている。

(1) 構成員

- ・学識経験者（造園学2名、建築学1名、井上円了研究1名）
 - ・区職員（文化振興・多文化共生推進課長、スポーツ振興課長、公園課長）
- ※オブザーバーとして、文化庁、東京都教育庁、哲学堂公園指定管理者が参加

(2) 実施経過

- ・第1回 令和6年 9月5日開催（協議・検討）
- ・第2回 令和6年 11月7日開催（協議・検討及び現地視察）

2 令和6年度の主な協議・検討事項（位置は別紙参照）

(1) 再整備基本設計（造園に関すること）

- ・哲学堂七十七場（建造物、石造物、地象、植物、空間）の一部修復等
- ・植生、植栽（樹林の景観・植生改善、施設の損傷防止、サクラの段階的更新等）
- ・舗装、門、埋設施設等の劣化に対する更新
- ・柵、手すり、階段、照明等の改善
- ・園内バリアフリー対応（車いす利用者用駐車スペース、触知板の設置等）
- ・ベンチ、サイン等の再配置と意匠統一等
- ・防災及び防犯施設（ソーラー式照明灯、防犯カメラ）の設置
- ・園内トイレ（児童遊園、つつじ園、さくらの広場）の改修 など

(2) 管理棟再整備基本計画

文化財の保全や景観への配慮とともに、施設利用者の利便性向上を図る観点から、現在と同等の位置・範囲で、地上2階、地下1階の建物へと建て替えを行う。

このうち1階部分に、国名勝としてのガイダンス機能や、公園ガイドの活動拠点等を有する公開・普及・活用室を整備する（面積に限りがあるため、園内の古建築物との役割分担のもと、展示、見学の在り方、イベント等の活用を図っていく）。

(3) 古建築物の活用方針

内部が定例公開されている古建築物のうち、「四聖堂」、「宇宙館」、「絶対城」は都名勝時代に修復済であるが、「六賢台」、「無尽蔵」、「鬮腰庵」、「鬼神窟」は今後、本格的な修復を予定している。また、「名勝哲学堂公園保存活用計画」において、古建築物の更なる利用の促進と改善、教育や学習等への活用が求められている。

これらの背景と個々の建築物の特性を踏まえ、展示、見学の在り方、イベント等に関する今後の方向性について、現在検討を行っている。なお、本方針は、今後の修復時に耐震補強や設備類の拡充等を検討する際の判断材料ともなる。

(4) 常識門修復実施設計

哲学堂七十七場の一部をなす「常識門」について、柱の根本部分や扉の腐朽、金物類の欠損、聯（れん）の風化など、全体的に激しい劣化が確認されており、早急な修復に向けて、実施設計に取り組んでいる。



常識門の現況



控柱の腐朽状況

(5) 独断峡等診断調査（予備診断、基礎診断相当）

哲学堂七十七場の一部をなす、斜面地部分の石積（「独断峡」、「造化澗」、「心理崖」）の安全性を確認するため、「文化財石垣耐震診断指針（案）」（文化庁）における「予備診断」及び「基礎診断」相当の診断調査を行った。その結果、一部の石積において、土の流出による基礎の露出や、近接する樹木の影響等による亀裂やせり出しが確認されており、適切な対処が必要である。



石積の亀裂



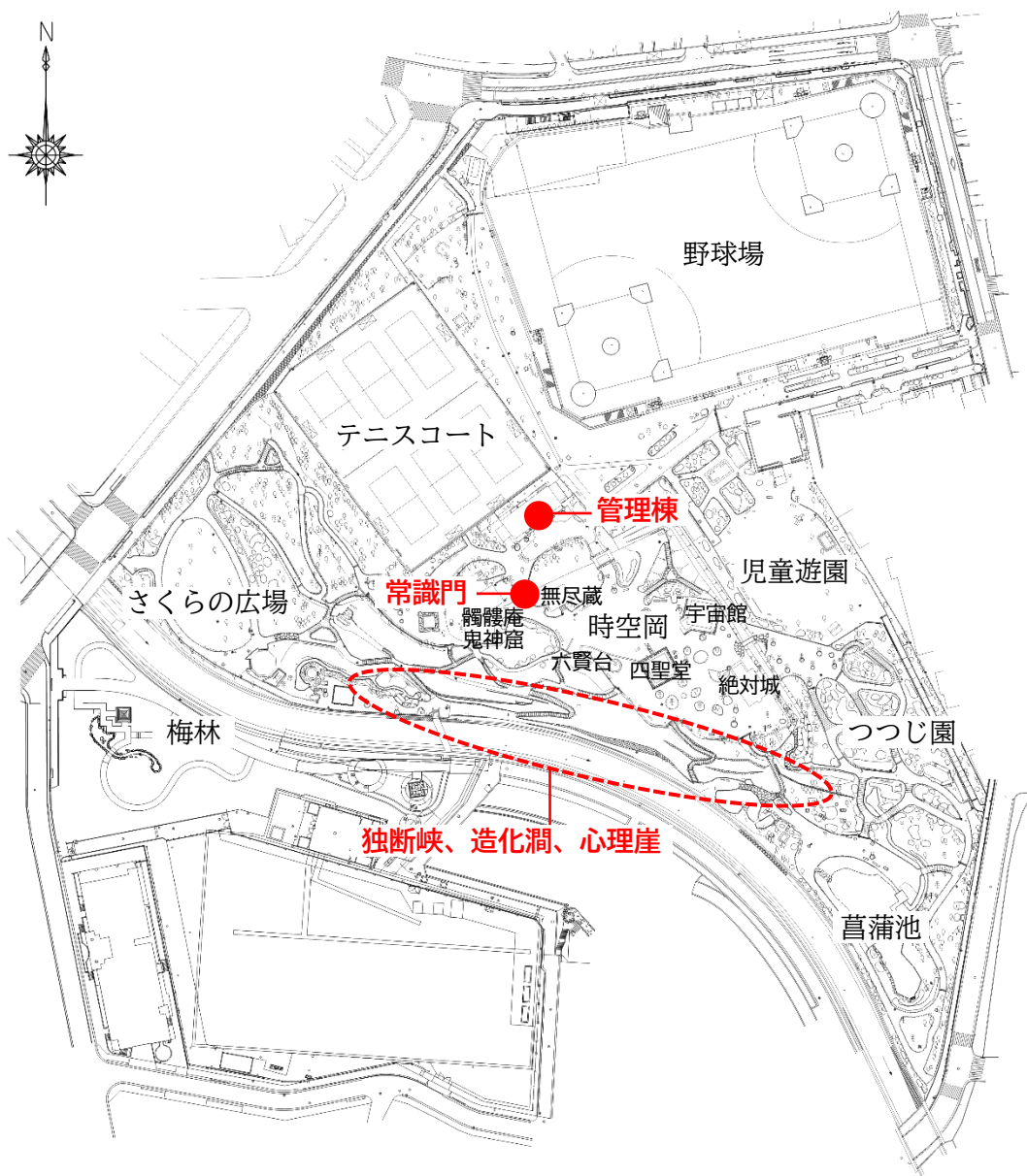
石積のせり出し状況

3 今後の予定

令和7年1月31日	名勝哲学堂公園整備検討委員会（第3回）開催
3月	区民説明会、再整備基本設計等とりまとめ
令和7年度	再整備実施設計（第一期：斜面地周辺）
	埋蔵文化財試掘調査（第一期及び管理棟周辺）
	常識門修復工事、独断峡等診断調査（専門診断相当）
	六賢台耐震診断・修復実施設計、古建築物修復に係る小委員会設置

※以降、名勝哲学堂公園再整備基本計画で示した事業スケジュールに沿って進行する。

(別紙) 事業位置図



管理棟 (昭和 53 年建築)



常識門 (明治 42~45 年建設)



造化澗の石積 (建設年不明)